

2014年9月8日

法務省「死刑制度に関する世論調査についての検討会」第2回会合検討資料

谷藤悦史（早稲田大学）

1. Q2について

死刑制度に対する国民の信念や態度を探る際に、一度の世論調査によって解明は無理であり、長期的な視点から「変わっている点」と「変わっていない点」を探ることが必要であると思う。その点で、調査の継続性を確保したい。

それを前提に、いくつかの提案を試みる。

Q2の質問票を拝見すると、「どんな場合でも」と「場合によっては」の表現がかなり唐突である。この表現を用いるなら、語順を変えて、選択肢の強度順にならべると論理的には、次のようになる。

- A 死刑はどんな場合でも廃止する
- B 死刑は場合によっては廃止する
- C 死刑は場合によっては存続する
- D 死刑はどんな場合でも存続する

しかし、この世論調査はSQで、この質問を補う構造になっているので、それを前提にすると、選択肢に唐突の感が強度をふさないで、従来の質問文を生かしながら、単純に廃止か存続かを問いかける方法もある。選択肢を2にすると、中間にシフトする傾向も回避することが可能。

- A 死刑は廃止すべきである
- B 死刑はやむをえない
- C わからない

SQ2 a、SQ2 bについて、基本的に変更は必要ないと考える。しかし、SQ2 aの選択肢に、「すぐに」と「全面」という二つの軸が入っている。SQ2 bでは、時間軸のみを聞いていることを勘案すると、SQ2 aも時間軸だけにして、以下のすることが可能である。

- ア) すぐに廃止する
- イ) だんだん死刑を減らしていき、いずれ廃止する

ウ) わからない

2. 「終身刑」について。

「終身刑」の導入に対する国民の意見を聞き、それとの関連で「死刑」の存廃を聞くのかの、「終身刑」の導入を既定の事実とするのかの狙いを明確にすることが必要。

「終身刑」の導入を既定の事実として、死刑の存廃を聞くなら、

(例文)

「(わが国で、死刑に次いで重い刑は無期懲役刑です。) 無期懲役刑では、受刑者は一生刑務所に収容されますが、仮に釈放されることがあります。現在、わが国には導入されていませんが、受刑者に仮釈放を許さず、一生刑務所に収容する「終身刑」があります。」

「終身刑」を導入した場合、死刑を廃止した方が良いと思いますか、廃止しないほうが良いと思いますか。

ア) 死刑を廃止したほうが良い

イ) 死刑を廃止しないほうが良い、

ウ) わからない

「終身刑」の導入についての国民の意見を聞くことも前提に、それとの関連で「死刑」の存廃を聞くなら、

「終身刑」の導入をするかしないかの態度を明確にするためには、法務省が提示した②案が、明確であると思う。

3. 事前調査について

- ・サンプル数は、最低で 100 を確保したい。
- ・可能なら、2 地域を確保したい。
- ・質問文は、1 で提起した質問文で試み、従来の回答状況との差異を検証したい。

4. フェイス・シートについて

- ・とくに問題ありません